

鳥取県  
人々のつながりに関する基礎調査  
調査結果の概要

令和5年8月

福祉保健部 ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課

# 目 次

目 次	1
利用上の注意	1
第1 調査の概要	2
第2 結果の概要	4
1 孤独の状況	4
2 孤立の状況	46
3 新型コロナウイルス感染拡大の影響	59
4 孤独・孤立状態にある方の支援に向けて	61

## 利用上の注意

- ・本書は令和4年に実施した「鳥取県 人々のつながりに関する基礎調査」の調査結果の概要を取りまとめたものです。
- ・本文、表、グラフなどに使われている（n）は、各質問に対する回答者数です。回答不詳等がある場合、全体の数とは一致しません。
- ・結果は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入しています。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがあります。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とすることを原則としました。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい質問）においては、合計が100%を超える場合があります。
- ・クロス集計の図表では、分析の軸（＝表側、性別や年齢などの回答者の基本属性等）でnが少ないもの（25人未満を目安）は、誤差が大きくなるため、参考として図示し、分析の対象から除いている。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。

# 第1 調査の概要

## 1 調査の目的

鳥取県における孤独・孤立の実態を把握し、関連行政諸施策の基礎資料を得ることを目的として実施

## 2 調査の対象等

- (1) 調査の対象：鳥取県に居住する満16歳以上の個人
- (2) 調査対象者数：1,700人

## 3 調査事項

### (1) 孤独に関する事項

孤独感（UCLA孤独感尺度・直接質問）、継続期間、これまでに経験したライフイベント（家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等）、社会や他人とのかかわり方の満足度

### (2) 孤立に関する事項

外出頻度、外出目的、行動範囲、社会的交流（家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度）、社会参加（活動への参加状況）、各種支援の状況、他者への手助けの状況

### (3) その他関連事項

コミュニケーションツールの利用状況、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、心身の健康状態、コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化、孤独・孤立状態にある方への支援で必要なこと、孤独・孤立を感じている内容、孤独・孤立の状況が解消したきっかけとつながった経緯

### (4) 属性事項

年齢、性別、住まいの地域の様子、配偶者の有無、同居人の有無・数、収入を得ている同居人の数、教育・就業状態、居住形態（住宅の種類、持ち家か否か）、世帯の年間収入、障害者手帳の所持状況

## 4 調査の方法等

### (1) 調査期間

令和4年12月15日～令和4年12月21日

### (2) 調査の方法

Webモニター調査

## 5 集計事項

孤独感が高い人や孤立度合いが大きい人の属性・傾向（年齢、性別、教育・就業状況等）など、孤独・孤立の実態を概括的に把握するために必要な結果を集計

具体的には、年齢、性別、配偶者の有無等の「属性事項」と「孤独に関する事項」、「孤立に関する事項」とのクロス集計などを実施

## 6 集計対象数

この調査における集計対象数は、次のとおりであった。

### ◇性別

(上段：人数／下段：%)

n	男性	女性	答えその えない他 たく・(ど く・わち ないから ららない もい
1,700	813	859	28
100.0	47.8	50.5	1.6

※「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」は、男性・女性と比較して回答者が少なく、偏りが出るため、本書内の性別の分析軸には表示していない。

### ◇年齢

(上段：人数／下段：%)

n	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1,700	15	147	344	436	356	281	121
100.0	0.9	8.6	20.2	25.6	20.9	16.5	7.1

### ◇性別・年齢階級別

(上段：人数／下段：%)

n	男性全体	男性10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	女性全体	女性10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	その他
1,700	813	5	31	120	205	168	188	96	859	8	112	214	223	185	92	25	28
100.0	47.8	0.3	1.8	7.1	12.1	9.9	11.1	5.6	50.5	0.5	6.6	12.6	13.1	10.9	5.4	1.5	1.6

## 第2 結果の概要

### 1 孤独の状況

#### (1) 本調査における孤独感の把握方法

孤独という主観的な感情をよりの確に把握するため、この調査では、以下の2種類の質問により孤独感を把握した。

##### ①直接質問

以下のとおり「孤独」について、直接的に質問する内容となっている。

**あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。**

1 決してない	4 時々ある
2 ほとんどない	5 しばしばある・常にある
3 たまにある	

##### ②間接質問

間接質問は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案した「UCLA孤独感尺度」<sup>1</sup>の日本語版<sup>2</sup>の3項目短縮版<sup>3</sup>に基づくもので、以下の3つの設問への回答をスコア化し、その合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価する内容となっている。設問に「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査ではこれを間接質問と呼んでいる。

今回の調査結果の取りまとめに当たっては、3つの設問それぞれへの回答について、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、その合計スコアについて便宜的に「10～12点」(常にある)、「7～9点」(時々ある)、「4～6点」(ほとんどない)、「3点」(決してない)の4区分に整理した。

**あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることはありませんか。**

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

**あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。**

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

**あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。**

1 決してない	3 時々ある
2 ほとんどない	4 常にある

<sup>1</sup> Russell DW. UCLA loneliness scale (version 3): reliability, validity, and factor structure. J Pers Assess. 1996;66(1):20-40.

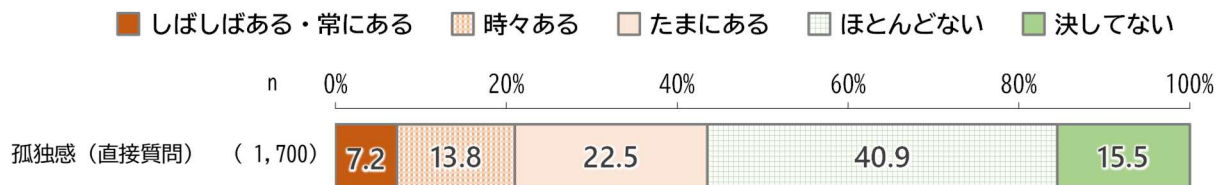
<sup>2</sup> 舛田ゆづり, 田高悦子, 他.: 高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度 (第3版) の開発とその信頼性・妥当性の検討, 日本地域看護学会誌. 15(1): 25-32, 2012.

<sup>3</sup> Arimoto A & Tadaka E: Reliability and validity of Japanese versions of the UCLA loneliness scale version 3 for use among mothers with infants and toddlers. BMC Women's Health. 2019;19:105.

(2) 孤独の状況（直接質問）

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は7.2%、「時々ある」が13.8%、「たまにある」が22.5%となっている。一方、孤独感が「ほとんどない」と回答した人の割合は40.9%、「決してない」が15.5%となっている。

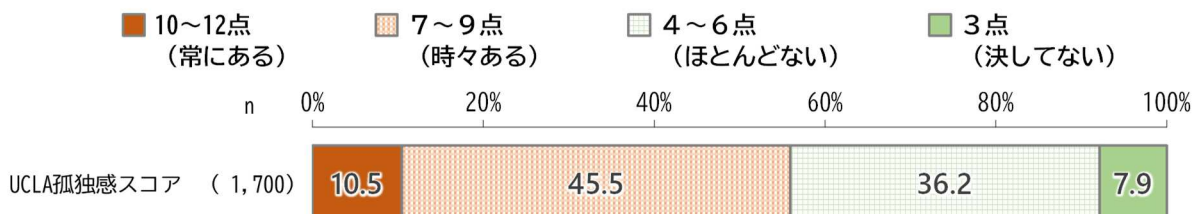
【図1-1】孤独の状況（直接質問）



(3) 孤独の状況（間接質問）

「UCLA孤独感尺度」に基づく孤独感スコアでは、「10～12点」という人の割合は10.5%、「7～9点」が45.5%となっている。「4～6点」という人の割合は36.2%、「3点」が7.9%となっている。

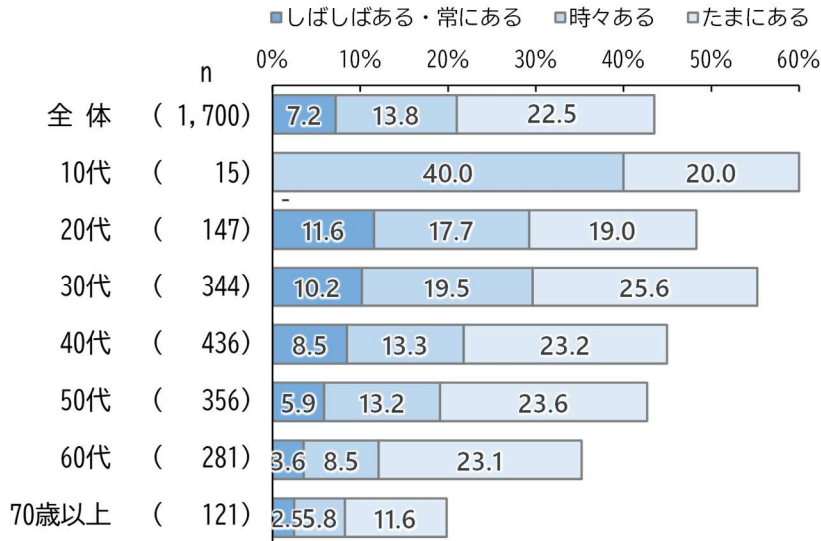
【図1-2】孤独の状況（間接質問）



(4) 年齢階級別孤独感（直接質問）

孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合が最も高いのは、20代で11.6%となっている。一方、その割合が最も低いのは、70歳以上で2.5%となっている。

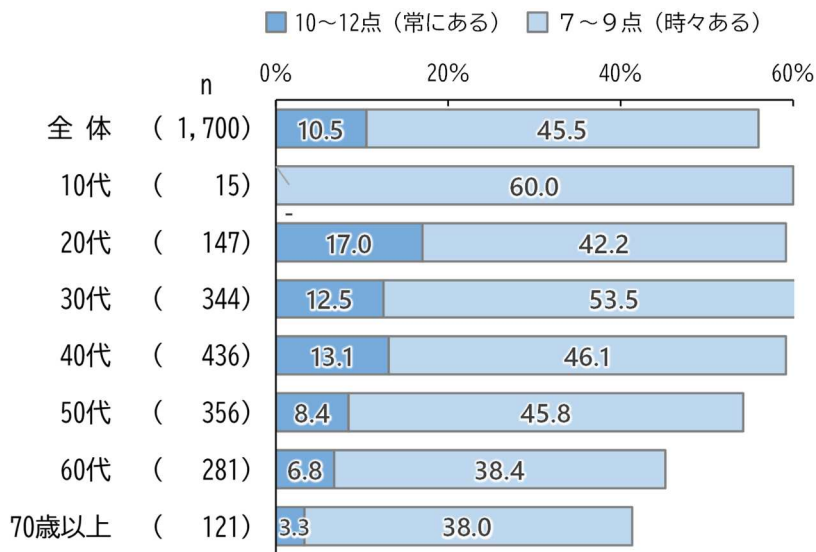
【図 1 - 3】 年齢階級別孤独感（直接質問）



(5) 年齢階級別孤独感（間接質問）

孤独感スコアが「10～12点」という人の割合が最も高いのは、20代で17.0%となっている。一方、その割合が最も低いのは、70歳以上で3.3%となっている。

【図 1 - 4】 年齢階級別孤独感（間接質問）

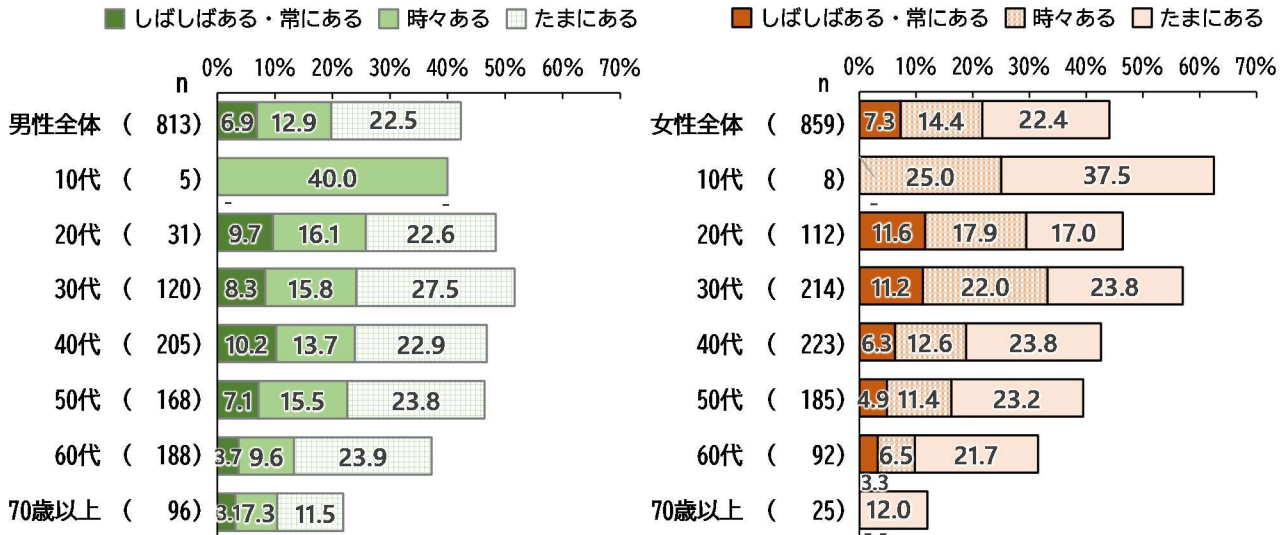


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(6) 男女，年齢階級別孤独感（直接質問）

男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が6.9%、女性が7.3%となっている。年齢階級別にみると、男性は40代で10.2%と最も高く、女性は20代で11.6%、30代で11.2%と高くなっている。

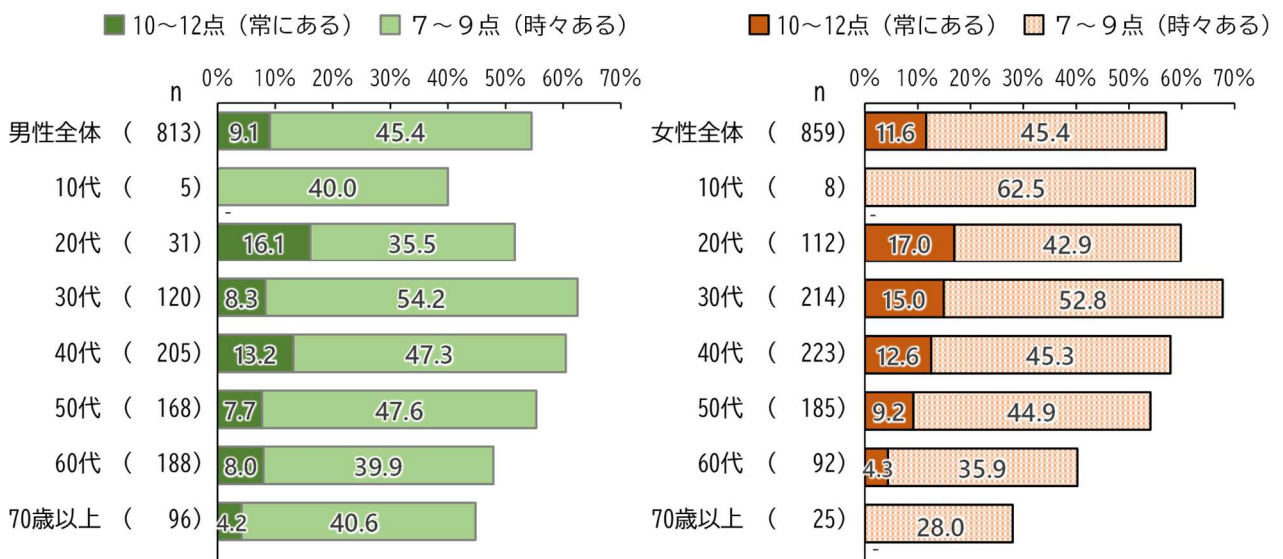
【図1-5】男女，年齢階級別孤独感（直接質問）



(7) 男女，年齢階級別孤独感（間接質問）

男女別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、男性が9.1%、女性が11.6%となっている。年齢階級別にみると、男女ともに20代の割合が最も高くなっている（男性16.1%、女性17.0%）。

【図1-6】男女，年齢階級別孤独感（間接質問）



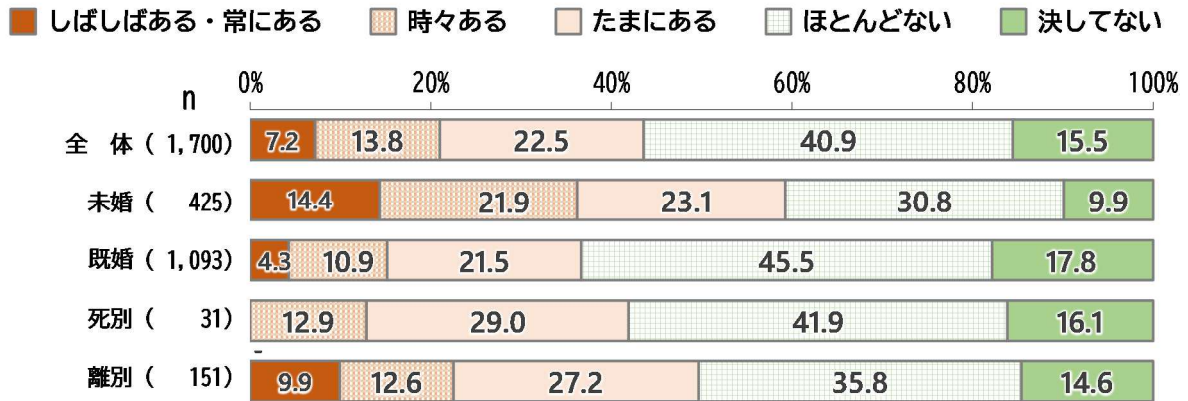
※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。



(8) 配偶者の有無別孤独感（直接質問）

配偶者の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、未婚者が14.4%、既婚者が4.3%となっている。なお、直接質問、間接質問ともに配偶者には事実上、夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含めている。

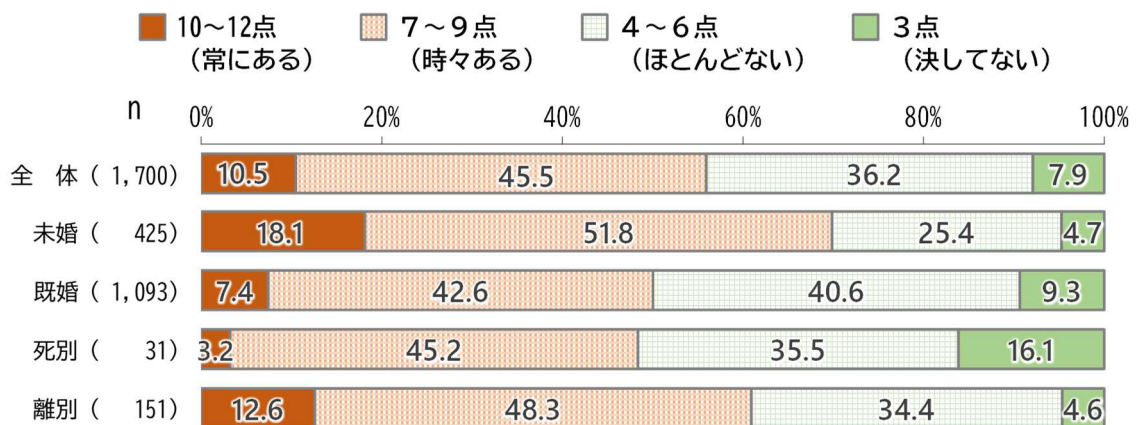
【図 1-7】 配偶者の有無別孤独感（直接質問）



(9) 配偶者の有無別孤独感（間接質問）

配偶者の有無別にみると、孤独感スコアが「10~12点」という人の割合は、未婚者が18.1%、既婚者が7.4%となっている。

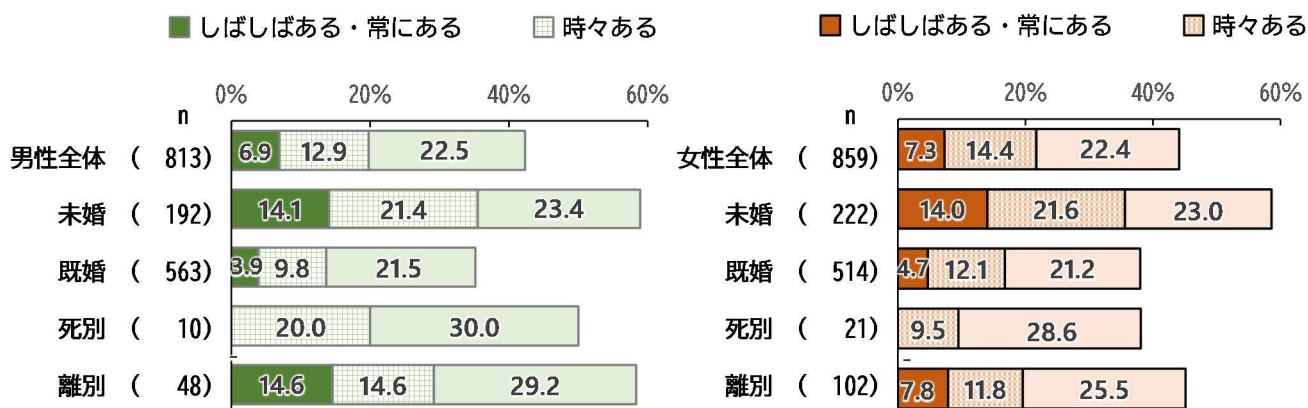
【図 1-8】 配偶者の有無別孤独感（間接質問）



(10) 男女，配偶者の有無別孤独感（直接質問）

男女別にみても、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性は「離別」が14.6%、女性は「未婚」が14.0%で最も高くなっている。

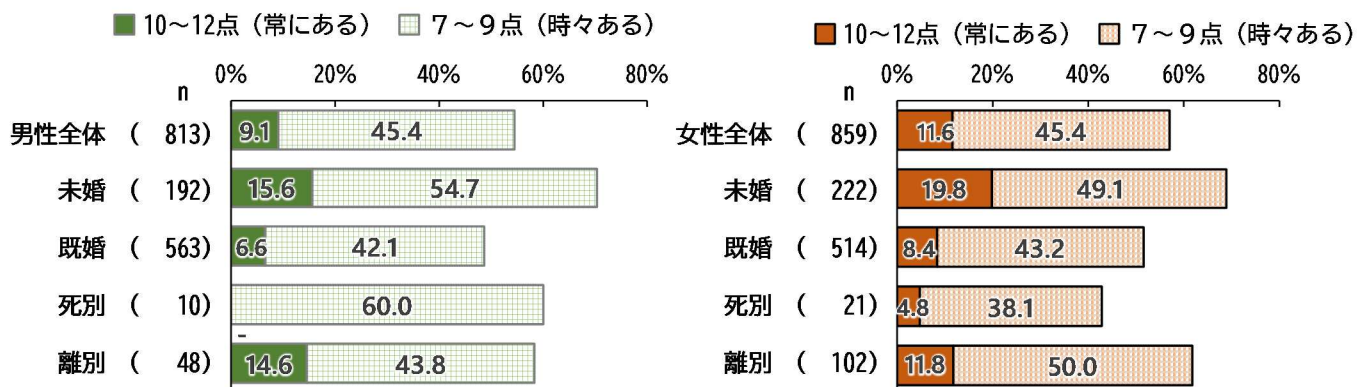
【図1-9】男女，配偶者の有無別孤独感（直接質問）



(11) 男女，配偶者の有無別孤独感（間接質問）

男女別にみても、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、男女ともに未婚者が最も高くなっている（男性15.6%、女性19.8%）。

【図1-10】男女，配偶者の有無別孤独感（間接質問）

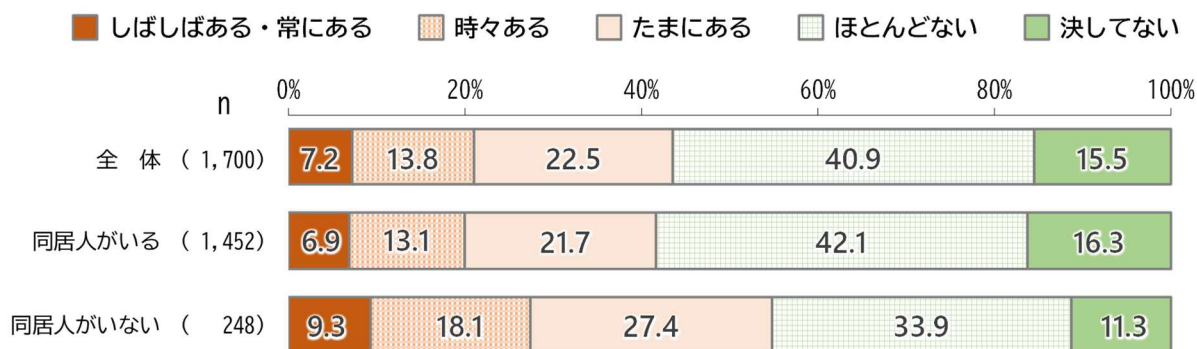


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(12)同居人の有無別孤独感（直接質問）

同居人の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいる人が6.9%、同居人がいない人が9.3%となっている。

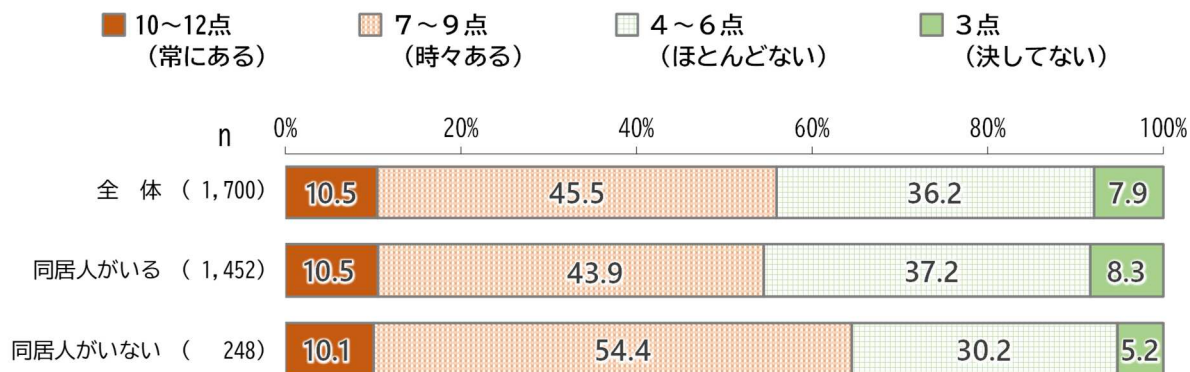
【図1-11】同居人の有無別孤独感（直接質問）



(13)同居人の有無別孤独感（間接質問）

同居人の有無別にみると、孤独感スコアが「10~12点」という人の割合は、同居人がいる人が10.5%、同居人がいない人が10.1%となっている。

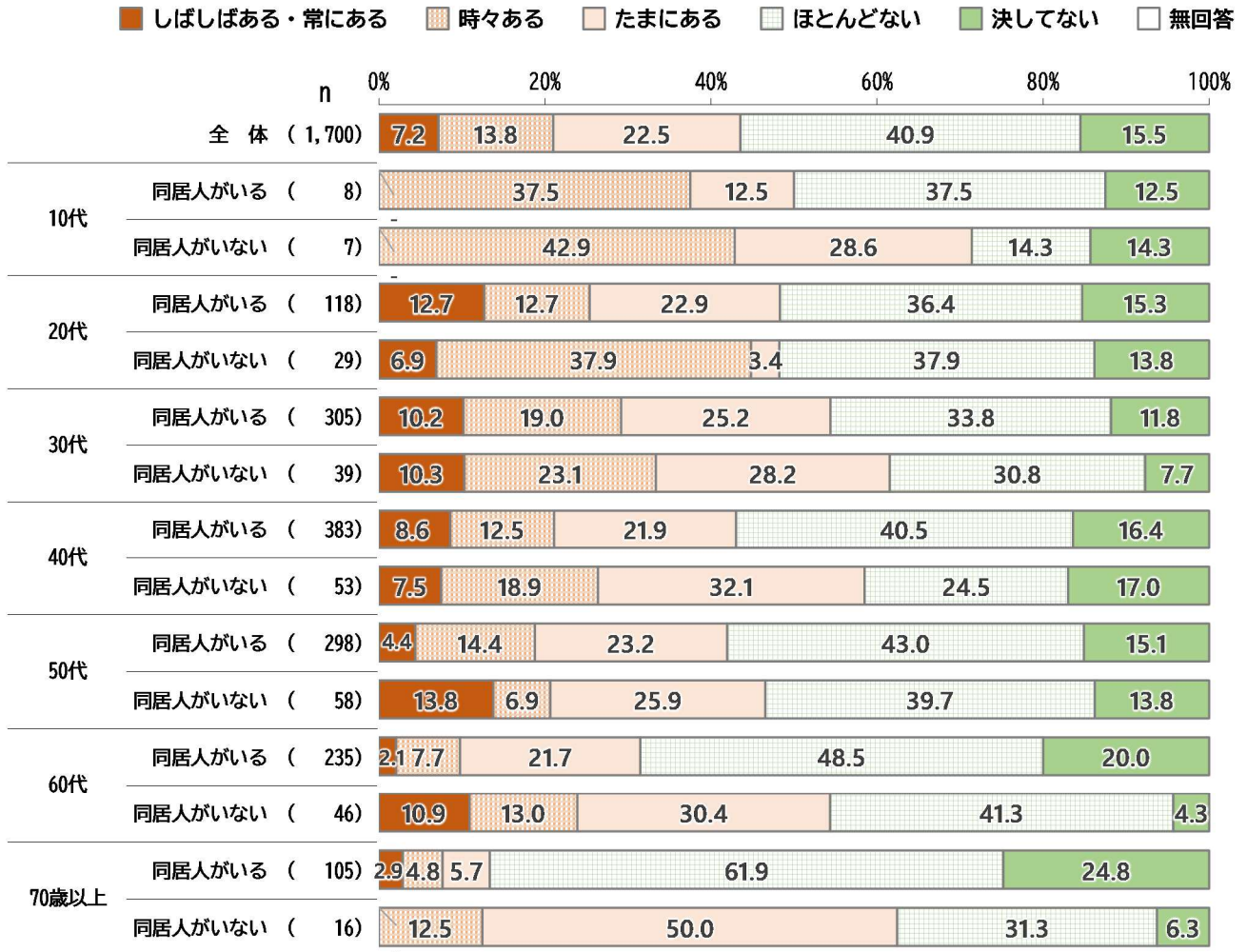
【図1-12】同居人の有無別孤独感（間接質問）



(14) 年齢階級、同居人の有無別孤独感（直接質問）

年齢階級、同居人の有無別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、同居人がいない50代の人で13.8%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、同居人がいる60代の人で2.1%となっている。

【図 1-13】 年齢階級、同居人の有無別孤独感（直接質問）

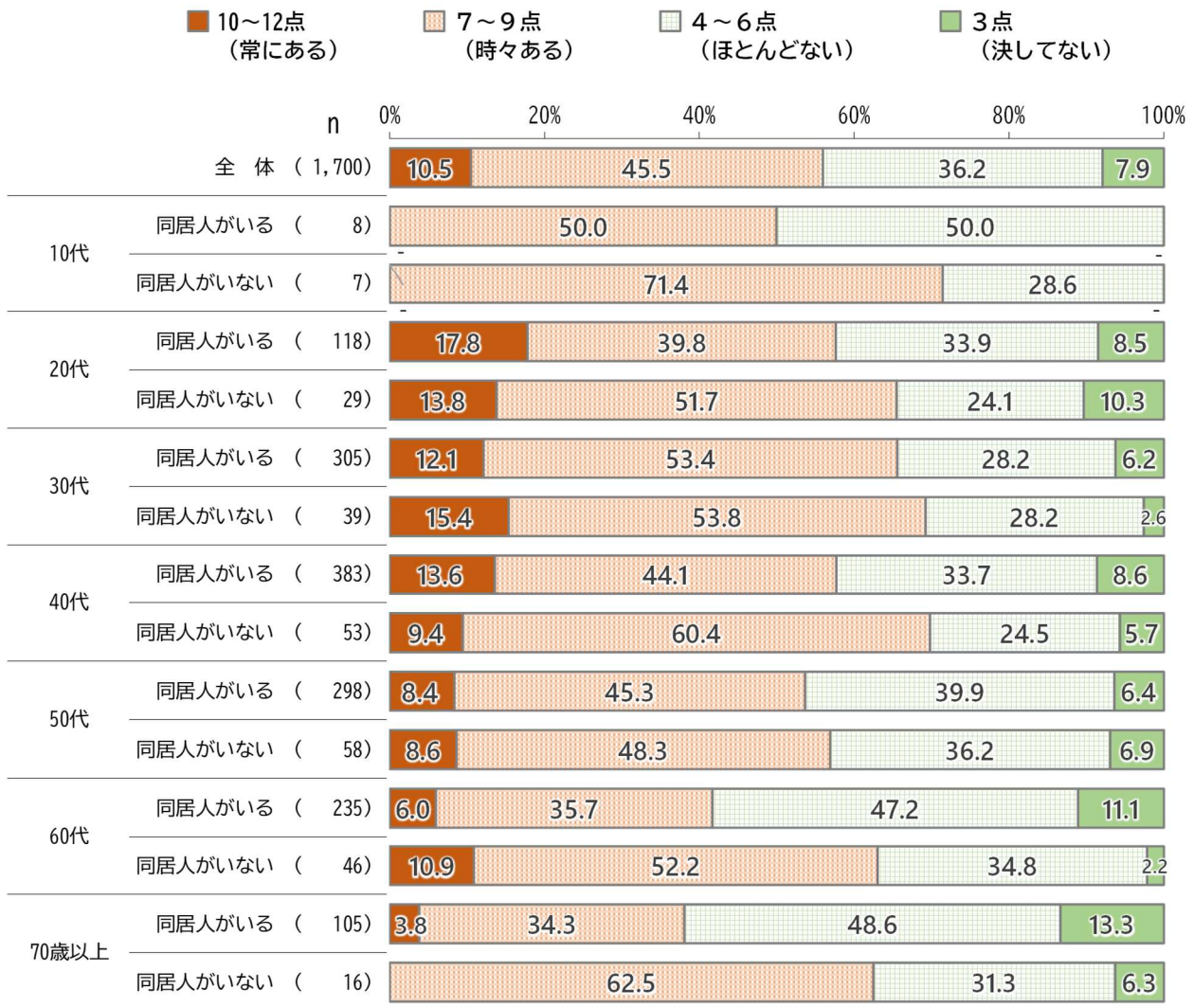


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(15)年齢階級，同居人の有無別孤独感（間接質問）

年齢階級、同居人の有無別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、同居人がいる20代の人で17.8%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは同居人がいる70歳以上の人で3.8%となっている。

【図1-14】年齢階級，同居人の有無別孤独感（間接質問）

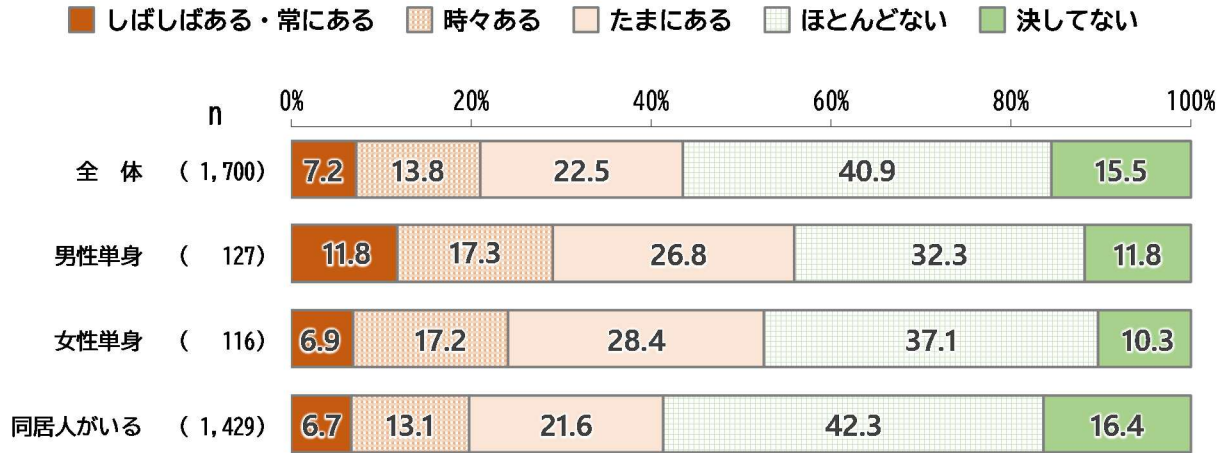


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(16) 男女別単身者の孤独感（直接質問）

単身者を男女別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、男性が11.8%、女性が6.9%となっている。

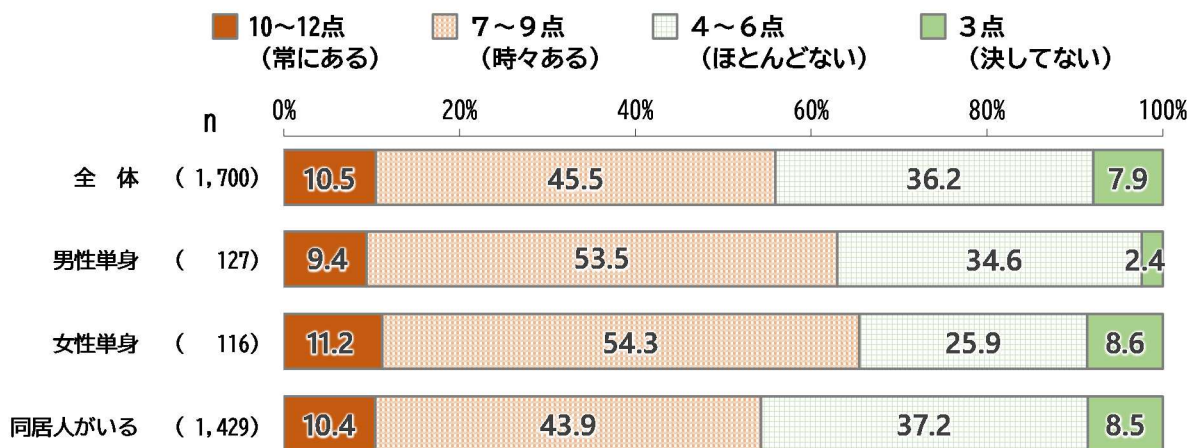
【図 1-15】 男女別単身者の孤独感（直接質問）



(17) 男女別単身者の孤独感（間接質問）

単身者を男女別にみると、孤独感スコアが「10~12点」という人の割合は、特に大きな違いはみられない。

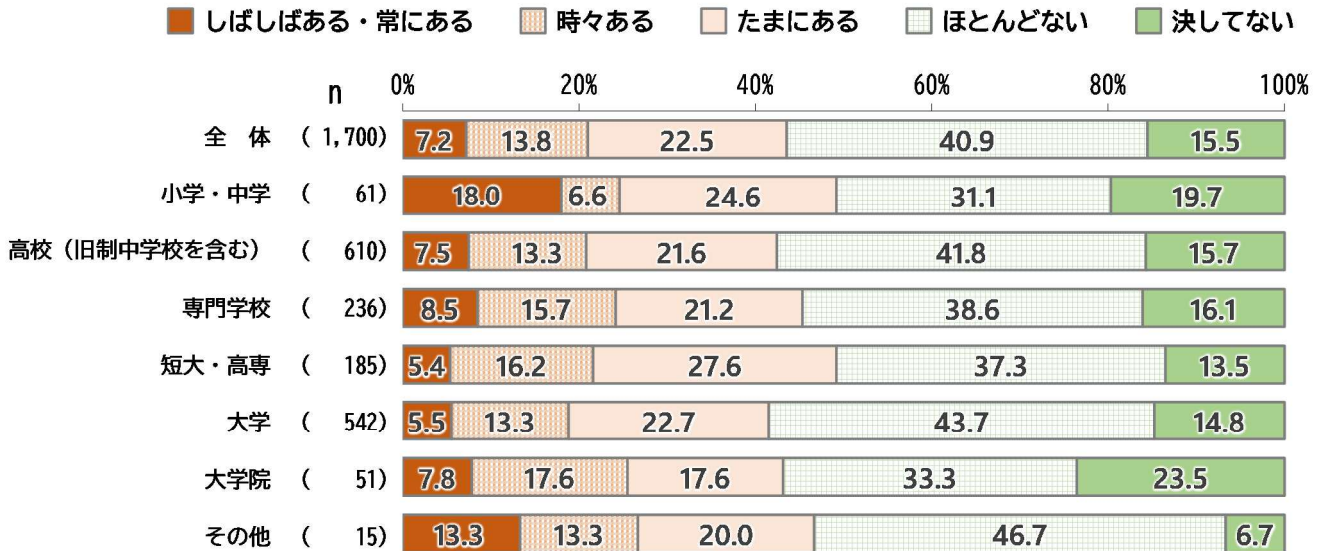
【図 1-16】 男女別単身者の孤独感（間接質問）



(18)最終学歴別孤独感（直接質問）

最後に卒業した学校（または現在、在学している学校）の種類別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、小学・中学の人が18.0%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、短大・高専の人で5.4%となっている。

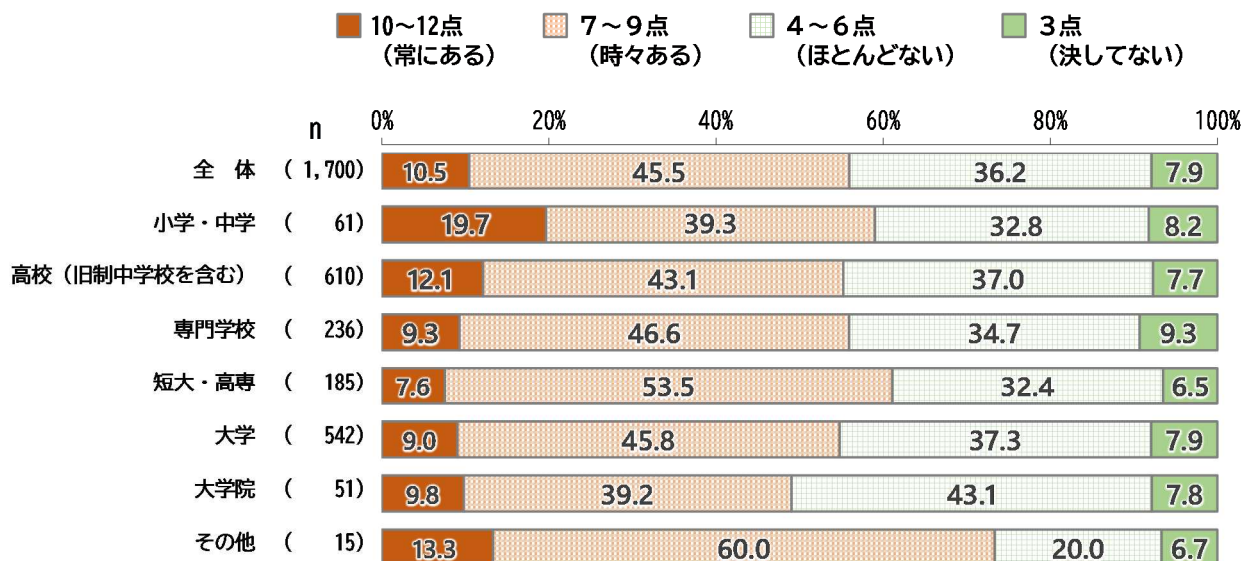
【図1-17】最終学歴別孤独感（直接質問）



(19)最終学歴別孤独感（間接質問）

最後に卒業した学校（または現在、在学している学校）の種類別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、小学・中学の人が19.7%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、短大・高専の人で7.6%となっている。

【図1-18】最終学歴別孤独感（間接質問）

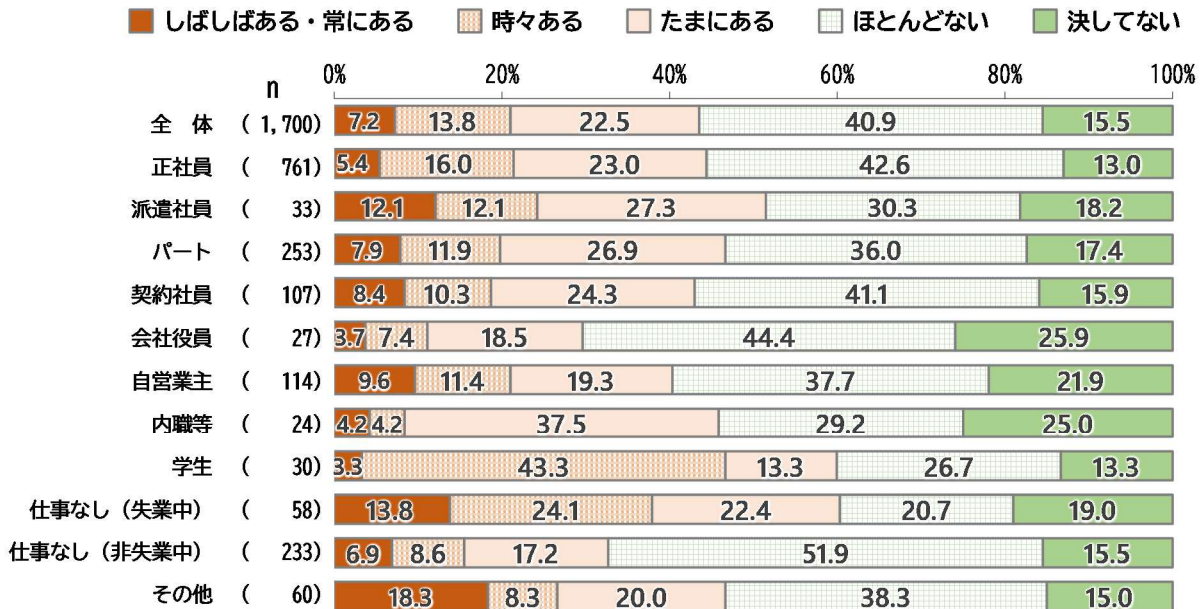


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(20)現在の仕事の種類別孤独感（直接質問）

現在の仕事の種類別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、仕事なし（失業中）の人が13.8%で最も高くなっている（「その他」を除く）。一方、その割合が最も低いのは、学生で3.3%となっている。

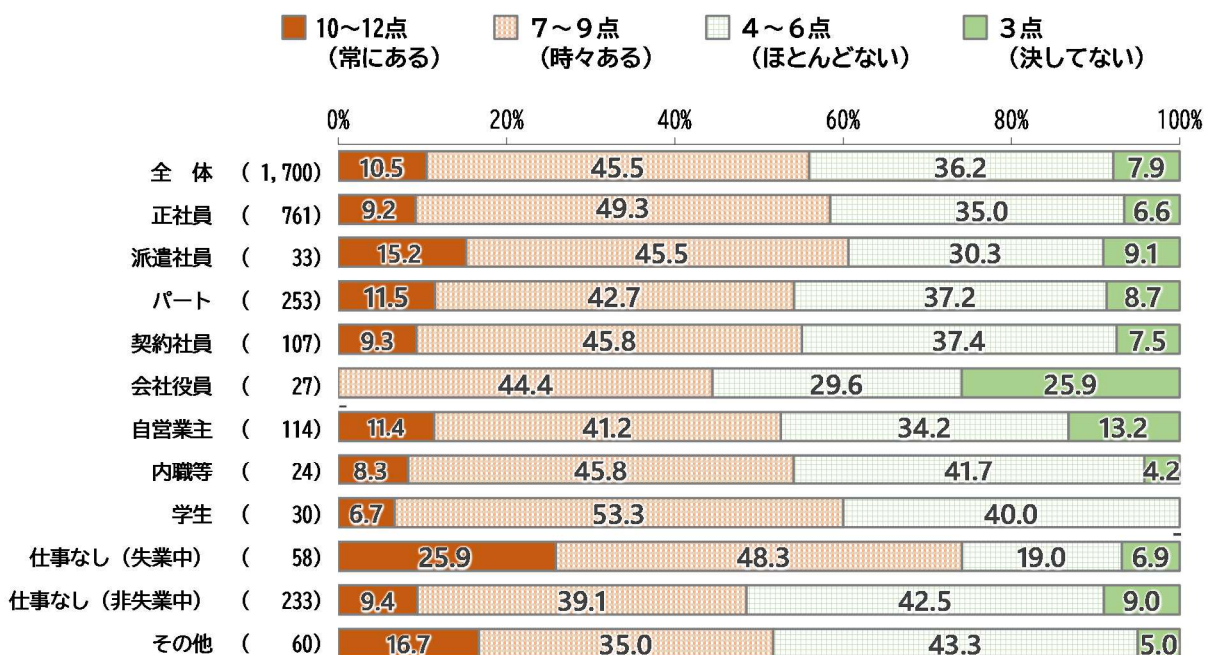
【図1-19】現在の仕事の種類別孤独感（直接質問）



(21)現在の仕事の種類別孤独感（間接質問）

現在の仕事の種類別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、仕事なし（失業中）が25.9%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、学生で6.7%となっている。

【図1-20】現在の仕事の種類別孤独感（間接質問）



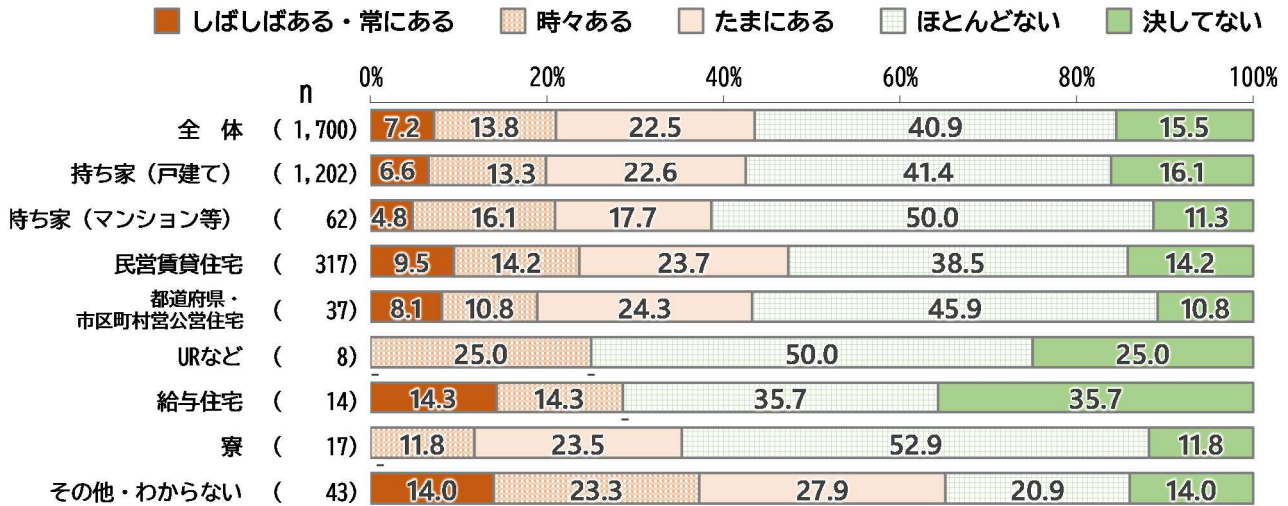
※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。



(22) 現在の住まいの状況別孤独感（直接質問）

現在の住まいの状況別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、民営賃貸住宅に住んでいる人が9.5%で最も高くなっている（「その他・わからない」を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（マンション等）に住んでいる人で4.8%となっている。

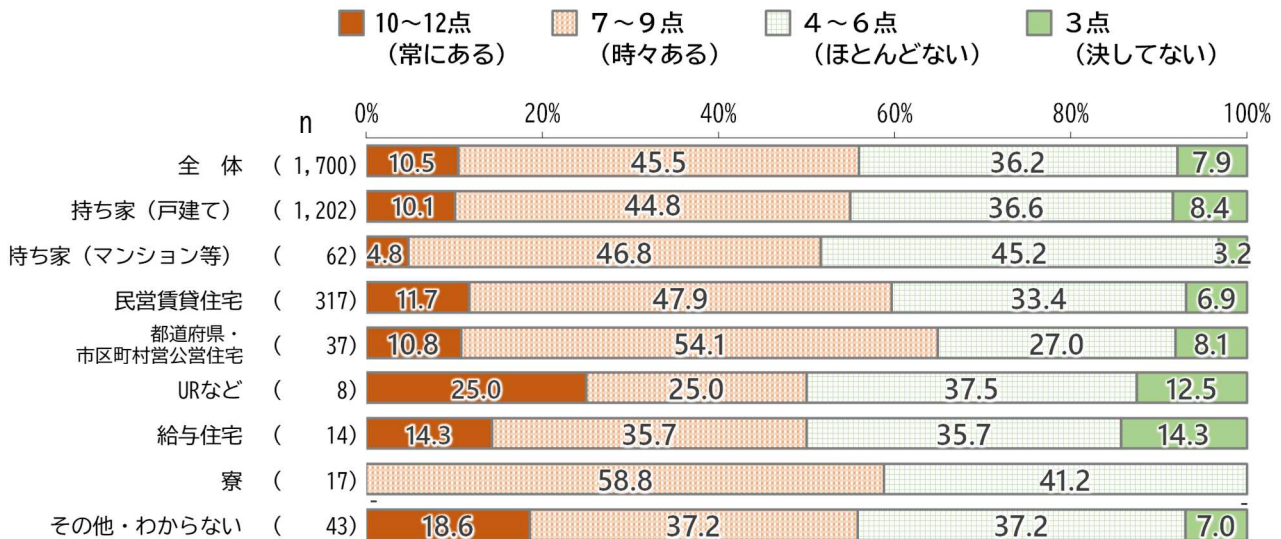
【図 1-21】現在の住まいの状況別孤独感（直接質問）



(23) 現在の住まいの状況別孤独感（間接質問）

現在の住まいの状況別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、民営賃貸住宅に住んでいる人が11.7%で最も高くなっている（「その他・わからない」を除く）。一方、その割合が最も低いのは、持ち家（マンション等）に住んでいる人で4.8%となっている。

【図 1-22】現在の住まいの状況別孤独感（間接質問）

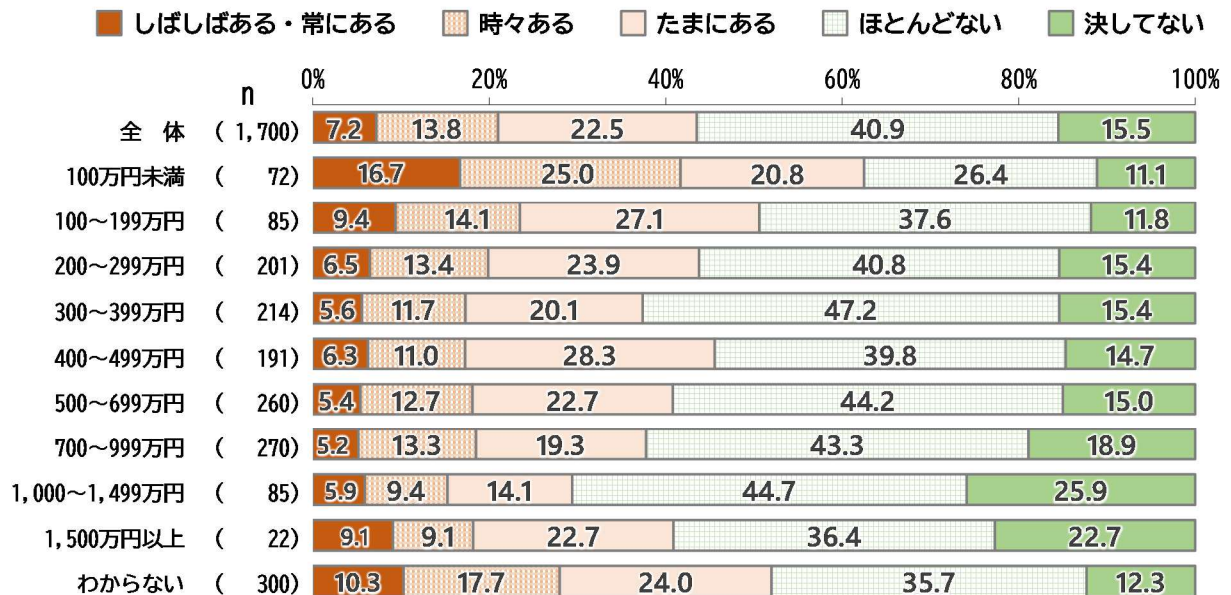


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(24) 世帯年収別孤独感（直接質問）

世帯年収（税・社会保険料込み）別にみると、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、年収100万円未満の人が16.7%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、年収700～999万円の人で5.2%となっている。

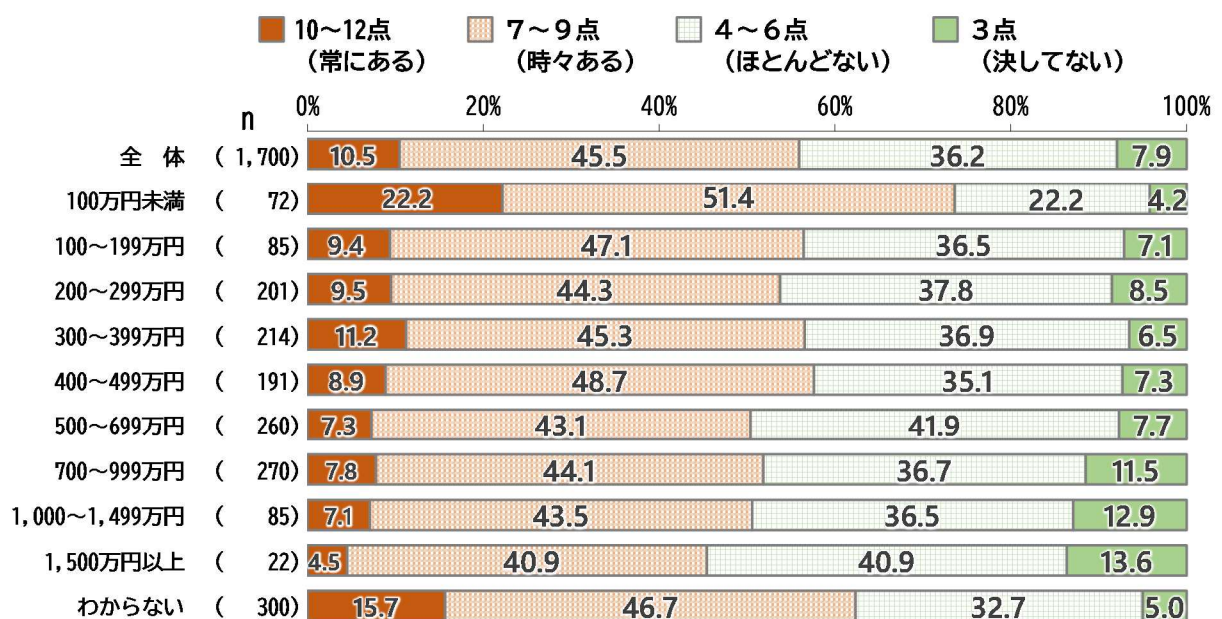
【図1-23】世帯年収別孤独感（直接質問）



(25) 世帯年収別孤独感（間接質問）

世帯年収（税・社会保険料込み）別にみると、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は、年収100万円未満の人が22.2%で最も高くなっている。一方、その割合が最も低いのは、年収1,000～1,499万円の人で7.1%となっている。

【図1-24】世帯年収別孤独感（間接質問）

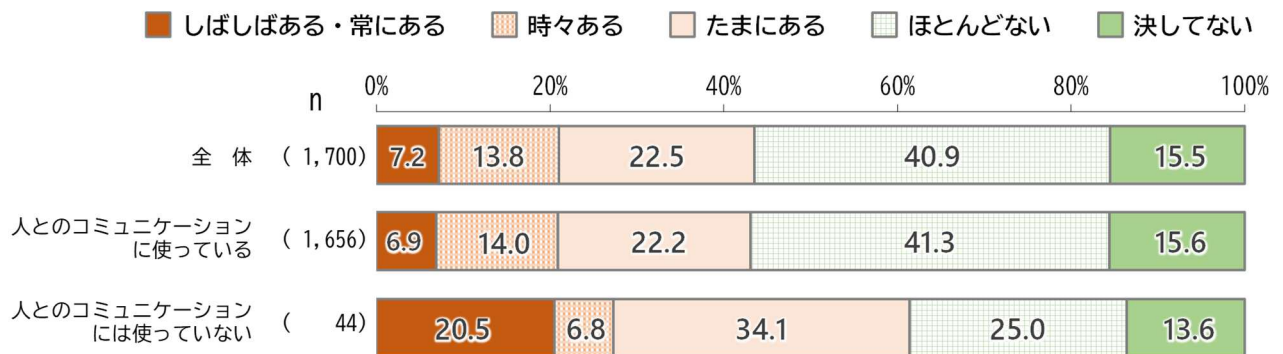


※nが25人未満の層は、人数が少ないので参考として図示し、文中では触れていない。

(26) 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（直接質問）

固定電話・FAX、携帯電話・スマートフォン、タブレット型端末、パソコン、その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機等）を人とのコミュニケーションに使っている人のうち、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は6.9%となっている。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は20.5%となっている。

【図1-25】 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（直接質問）



(27) 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（間接質問）

固定電話・FAX、携帯電話・スマートフォン、タブレット型端末、パソコン、その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機等）を人とのコミュニケーションに使っている人のうち、孤独感スコアが「10～12点」という人の割合は10.3%となっている。一方、人とのコミュニケーションに使っていない人のその割合は18.2%となっている。

【図1-26】 普段のコミュニケーションツールの利用状況別孤独感（間接質問）

